

継続的なウニ除去による藻場の造成 と漁場環境の変化



平岩採介藻グループ
【宮崎県日向市】

環境省
活動
現地
平成24年1月12日

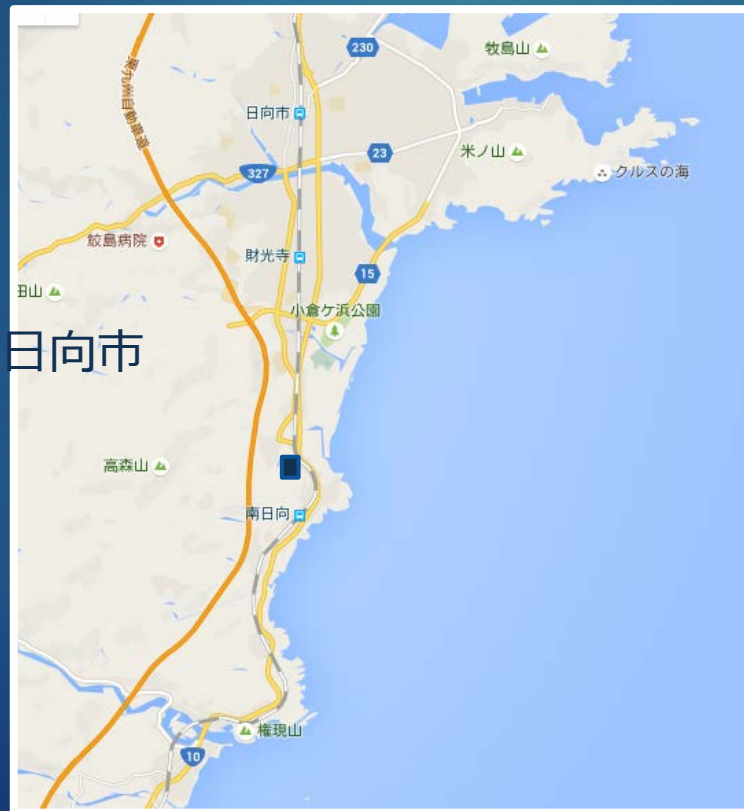
平岩採介藻グループ
H24年1月12日

1. 活動区域の概要

活動位置図・活動面積等

◆宮崎県日向市平岩地先

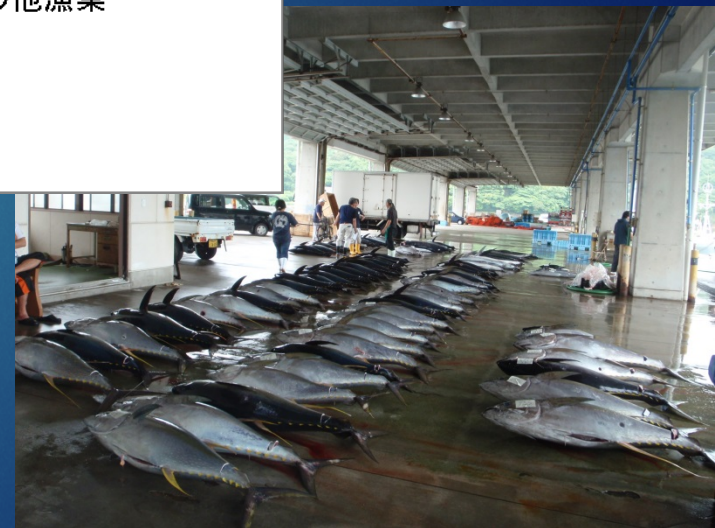
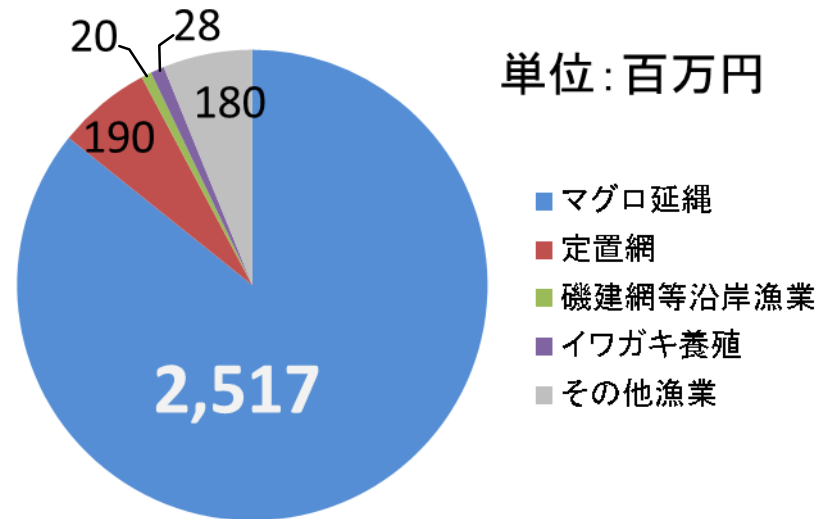
◆活動面積 9.4ha (R2現在)



2. 地域や漁業の概要

地域の漁業の概要

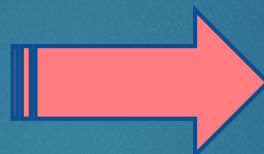
◆主力は、マグロ延縄漁
沿岸漁業も盛んに操業される



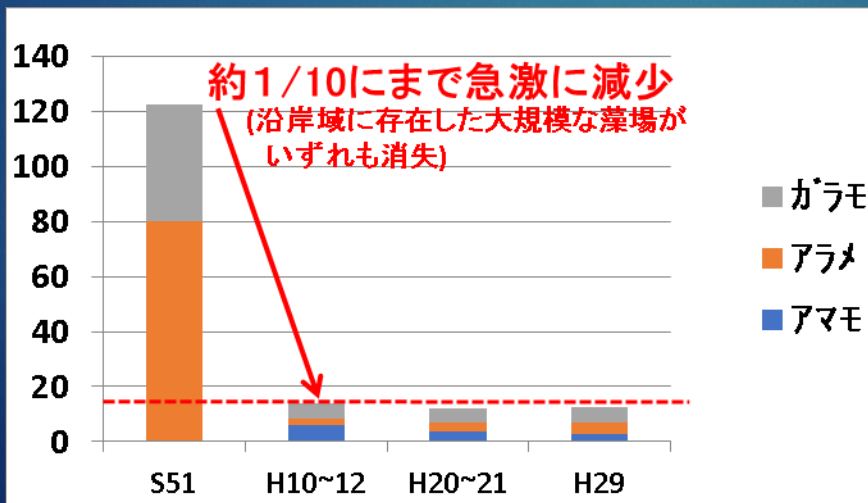
3. 地域（資源）の現状・課題

(1) 地域（資源）の現状・課題

◆ 藻場の衰退、沿岸（磯根資源）漁業の低調



日向市沿岸の藻場面積の推移



3. 地域（資源）の現状・課題

(2)活動組織設立に至る経緯と主な実績

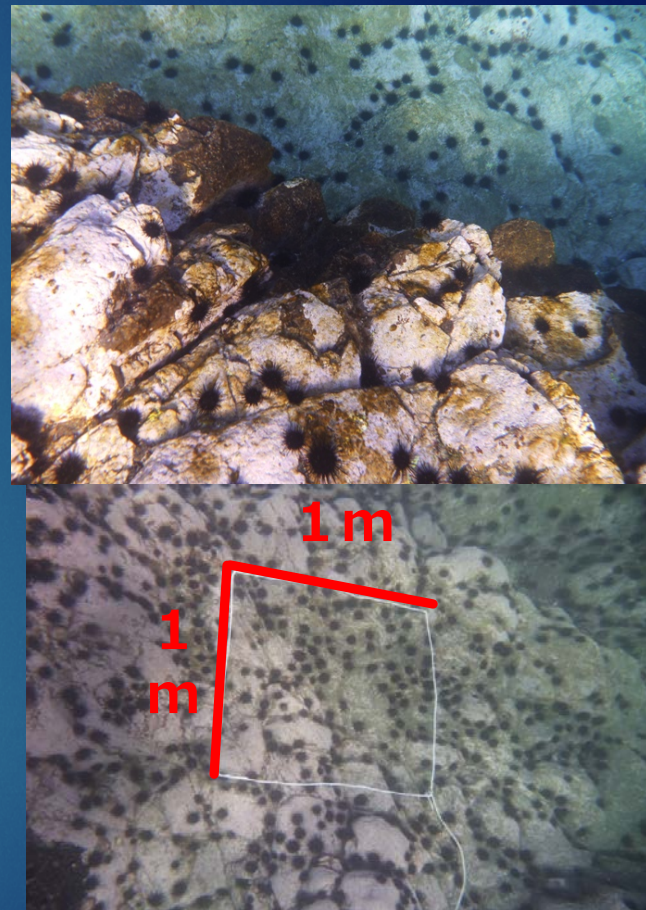
◎藻場の衰退、磯根漁業の低調・・・

- ◆平成 8年 ～ 藻場造成活動（漁協平岩支部）
- ◆平成22年 ～ 平岩採介藻グループ結成
環境・生態系保全活動支援事業を活用
(現在の水産多面的機能発揮対策事業)
- ◆平成25年 全国豊かな海づくり大会
環境大臣賞受賞
- ◆平成27年 自由民主党水産基本政策小委員会
(自民党本部) 活動成果報告

1個1個除去していく活動を継続 (現在11年目)



多いところでは、 1m^2 で**100個**以上



多い時は年間で推定約7万個2 t 程度のウニ
を除去

4. 活動組織の概要

(1)発足年月日

◆平成22年平岩採介藻グループとして再スタート

(2)構成員

◆合 計 9名

(内訳)

◇漁業者 6名

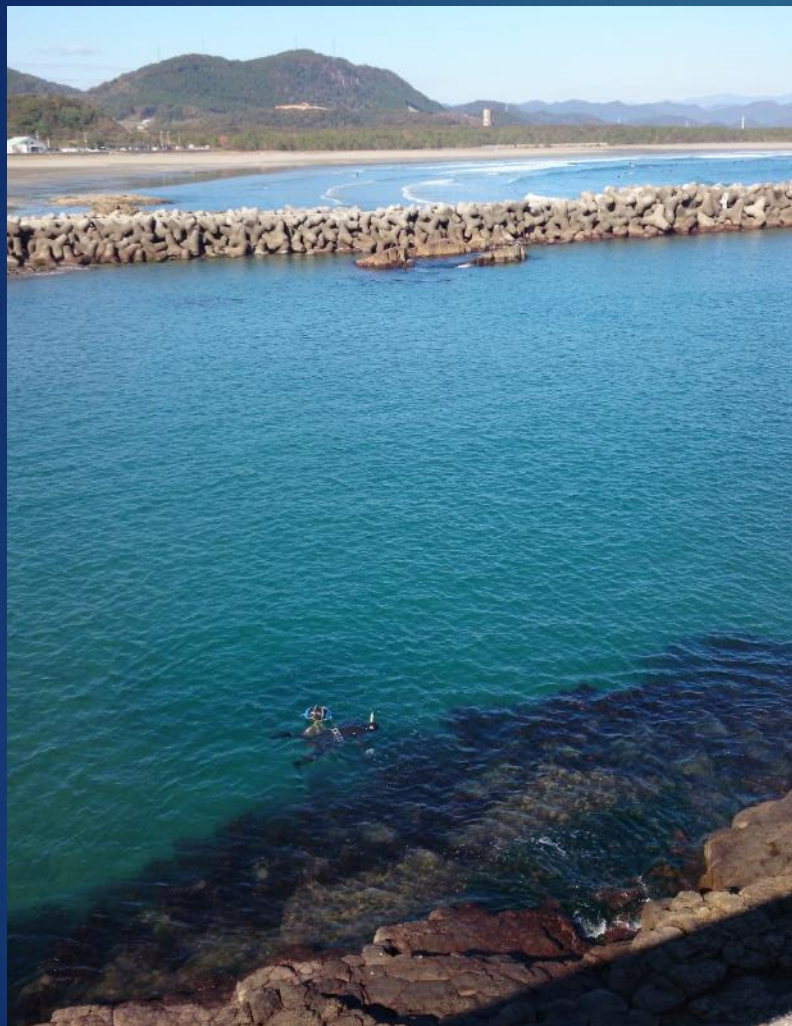
◇漁協職員 2名

◇日向市職員 1名



刺網、いせえび磯建網等を兼業

活動場所について



主に港外で活動

港外には、太平洋の波がまともに打ち寄せる



活動に適した凧の日が少なく、苦労も多い
透明度が高く凧の日が多い12～2月で主に活動

5. 活動の目標と計画

(1) 活動内容



監視継続と、
必要に応じた
ウニ類除去



流木等浮遊・
堆積物の除去



ウニ類除去は、で
きる規模から始め、
順次南へ拡大
近年は南側を集中
的に除去



5. 活動の目標と計画

(2)目標

将来的な目標

★S51年規模のクロメ藻場の回復

当面の目標

★ウニ除去による藻場の造成
＝ウニの生産性も向上

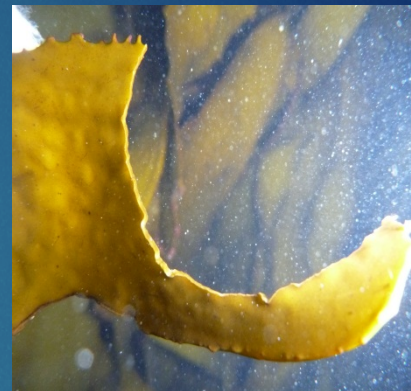


平岩地区で確認された植食性魚類

イスズミ（テトラ内に群れを確認）



ブダイ



食害痕

アイゴ



植食性魚類除去実績

	植食性除去					
	延べ人数	実施回数	採捕回数	採捕尾数	採捕重量 (kg)	備考
H25	41	4	3	3	6.3	ノトリスズミ
H26	97	11	4	8	8.9	ノトリスズミ ブダイ
H27	62	8	6	9	7.6	ノトリスズミ ブダイ アイゴ

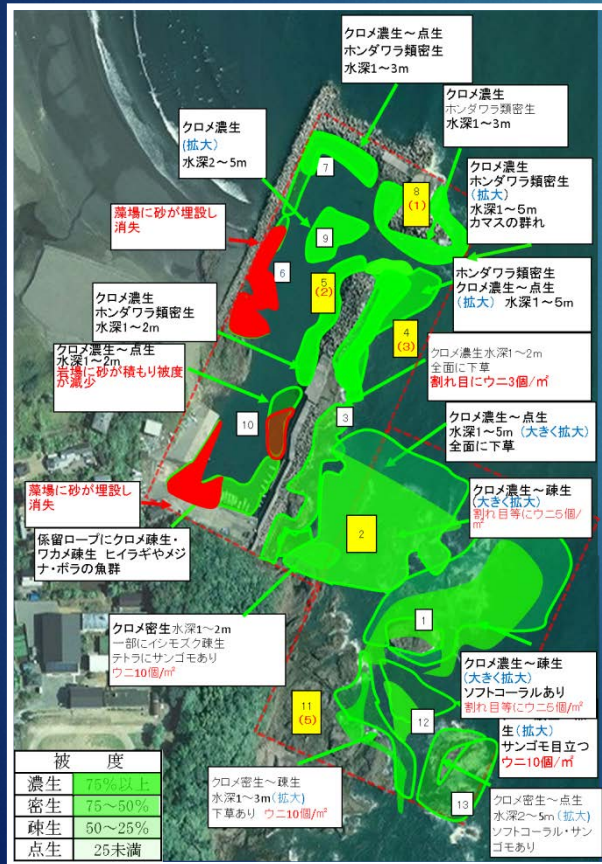


H28以降は目立った
食害が確認されていない

モニタリングを重視

漁業者自らが地図上に藻場の分布状況を作成

CADを用いて推定面積を算出



6. 発揮活動の実施状況及び成果

(1) ウニ類除去 (開始時 : H23.1)

年度	ウニ類除去		
	延べ 人数	日	活動 ha
H22	92	10	2.25
H23	83	10	2.25
H24	106	14	4.2
H25	80	13	7.5
H26	97	14	9.4
H27	67	17	9.4
H28	45	10	9.4
H29	56	11	9.4
H30	49	9	9.4
R1	32	8	9.4

H28～省力化を目指す

(ウニの密度 : 個/m²)



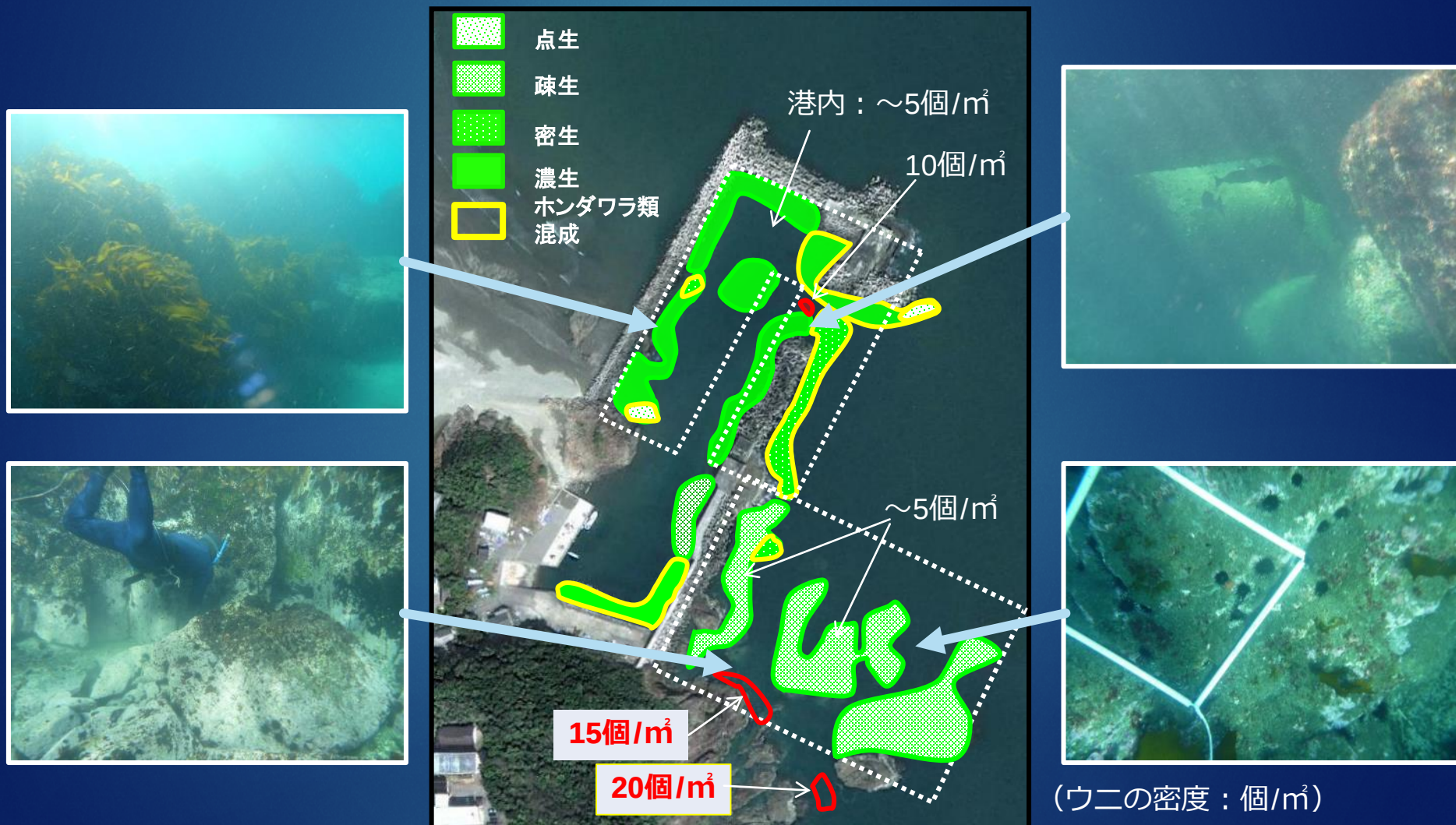
6. 発揮活動の実施状況及び成果

(1)ウニ類除去（経過：H24.3）活動面積2.25ha



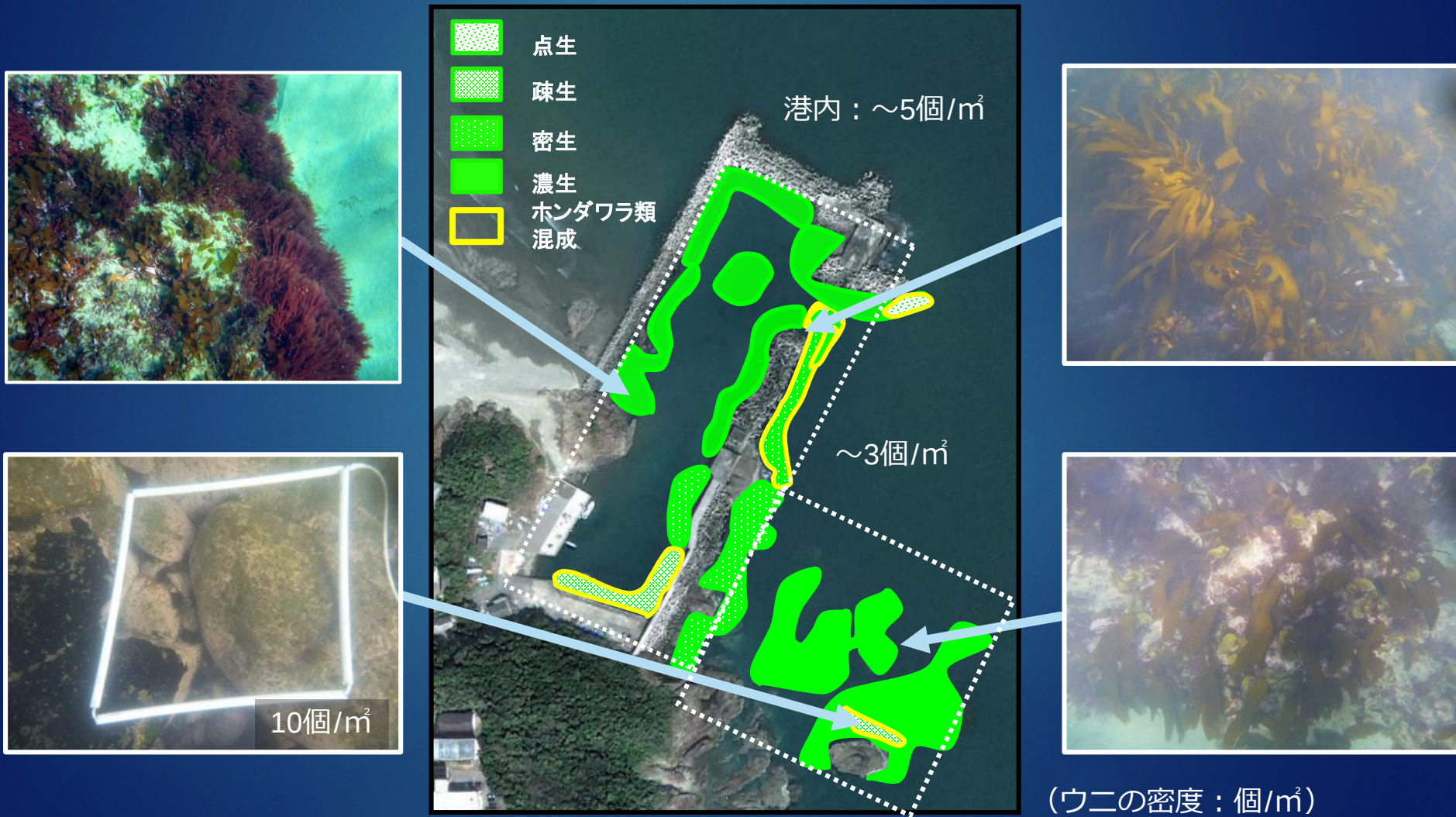
6. 発揮活動の実施状況及び成果

(1)ウニ類除去（経過：H25.3）活動面積4.2ha



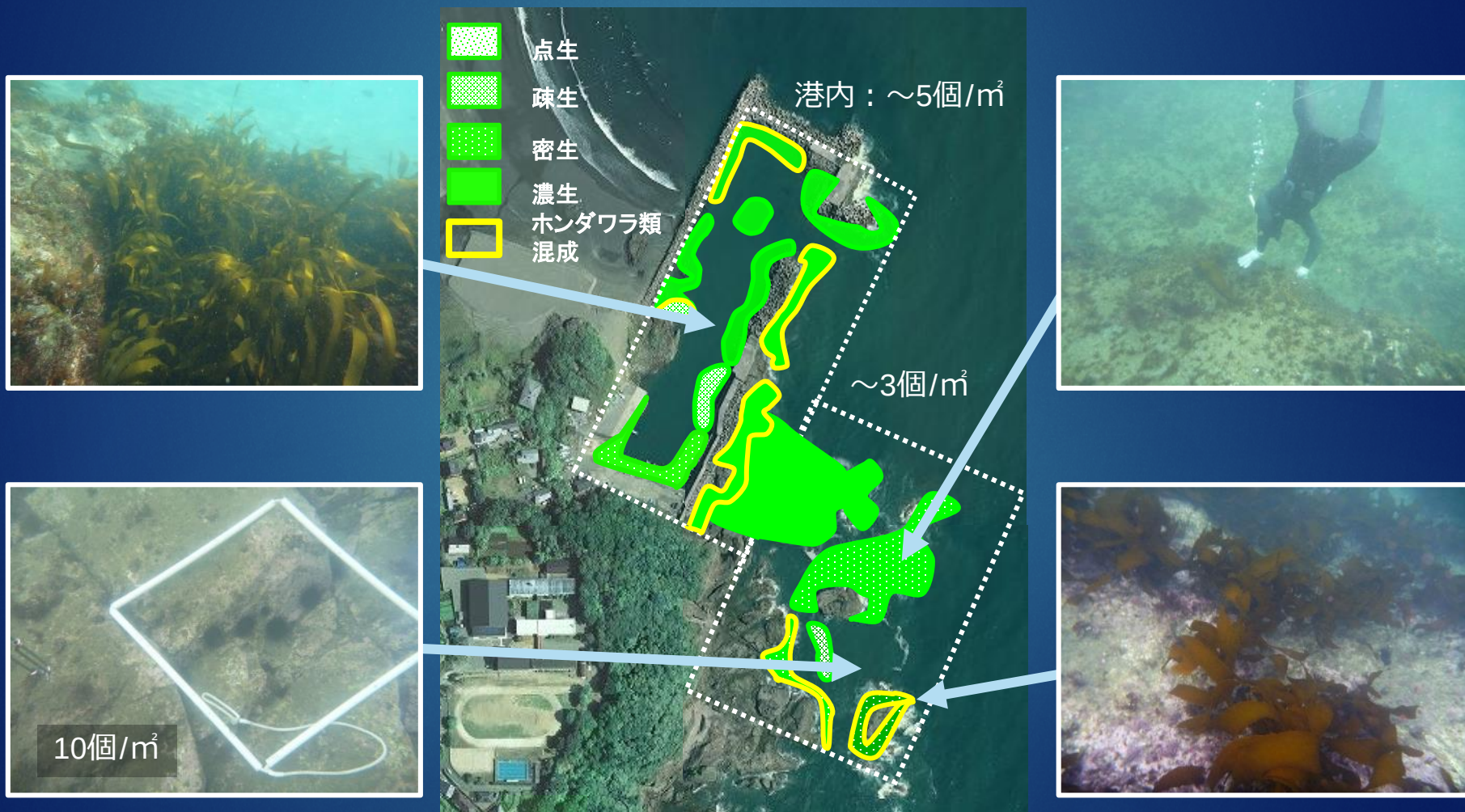
6. 発揮活動の実施状況及び成果

(1)ウニ類除去（経過：H26.3）活動面積7.5ha



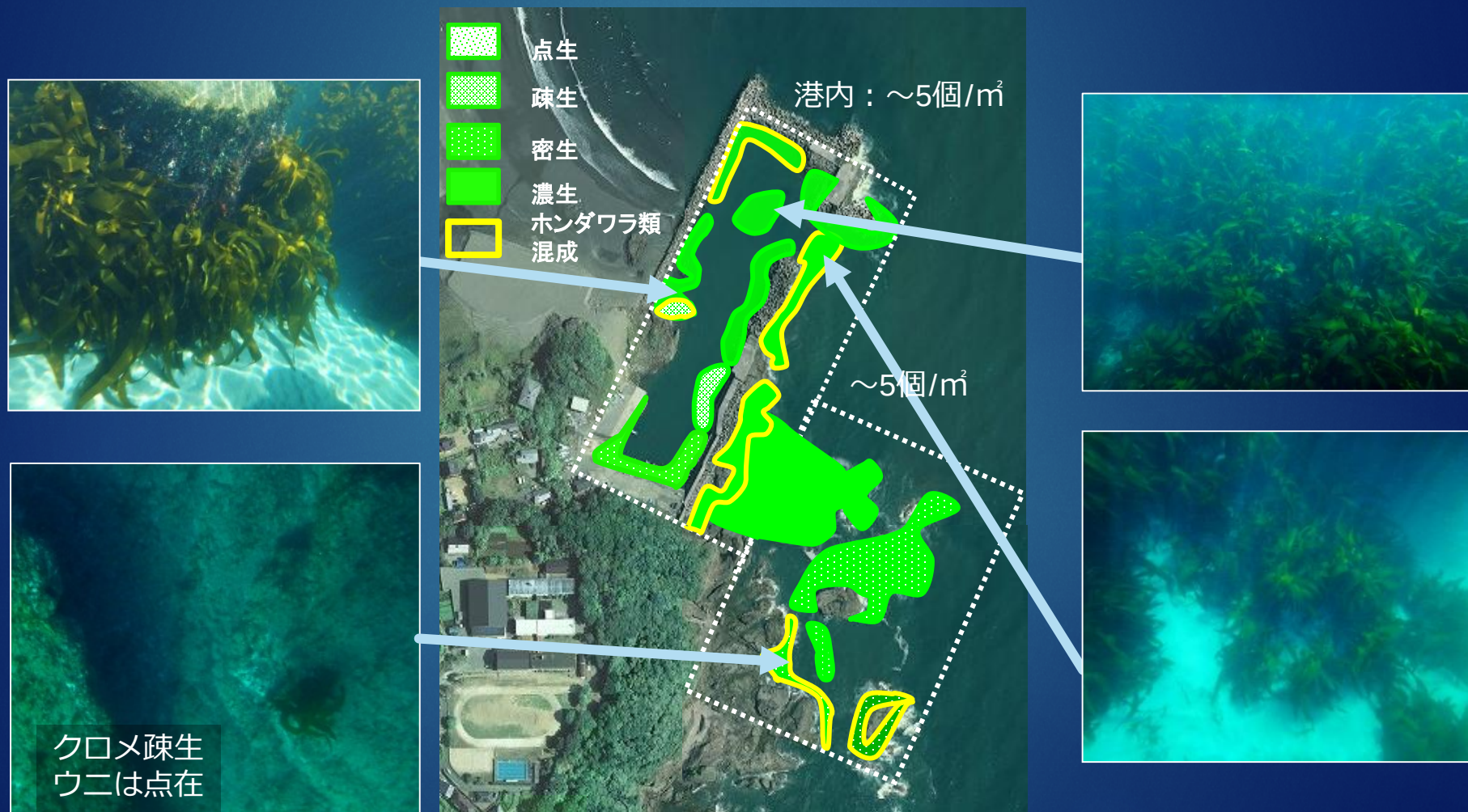
6. 発揮活動の実施状況及び成果

(1)ウニ類除去（経過：H27.3）活動面積9.4ha



6. 発揮活動の実施状況及び成果

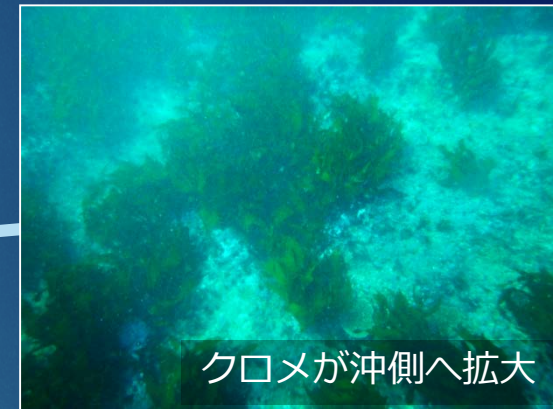
(1) ウニ類除去 (経過: H28.2)



6. 発揮活動の実施状況及び成果

(1)ウニ類除去（経過：R2.2）

開始時（H23） 0.4ha → 4.1ha

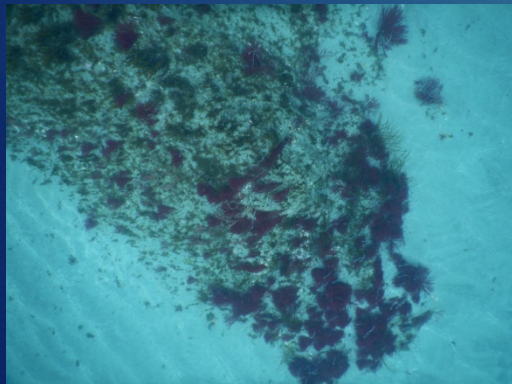


（ウニの密度：個/m²）

6. 発揮活動の実施状況及び成果

(1)ウニ類除去（経過：R 3.1） 現活動範囲周辺
開始時（H23） 0.4ha → 推定8.6ha

活動開始時の20倍以上に拡大



6. 発揮活動の実施状況及び成果

(2)ウニの身入り確認



H24.3月ウニの身入り調査（20個採取）

除去区（ウニ除去実施） 96.6g

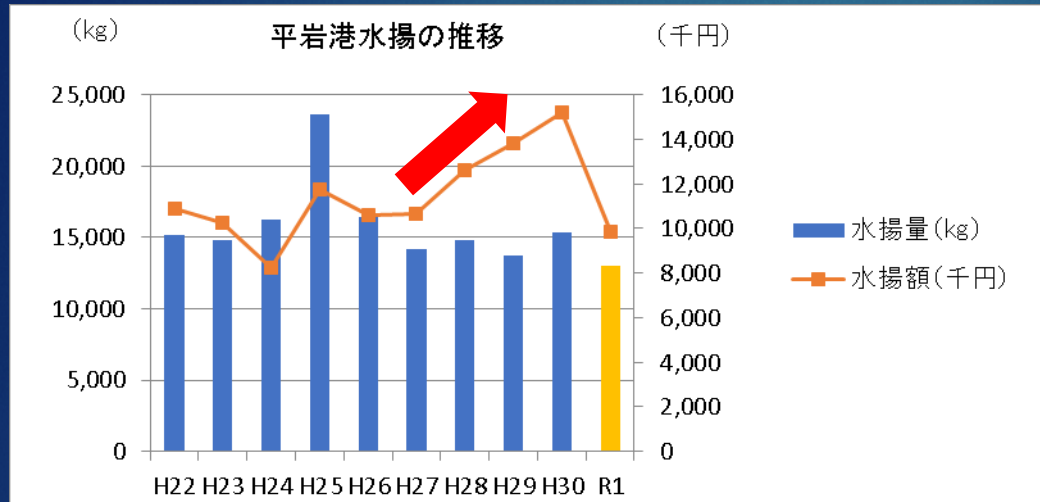
対象区（ウニ除去未実施） 19.9g



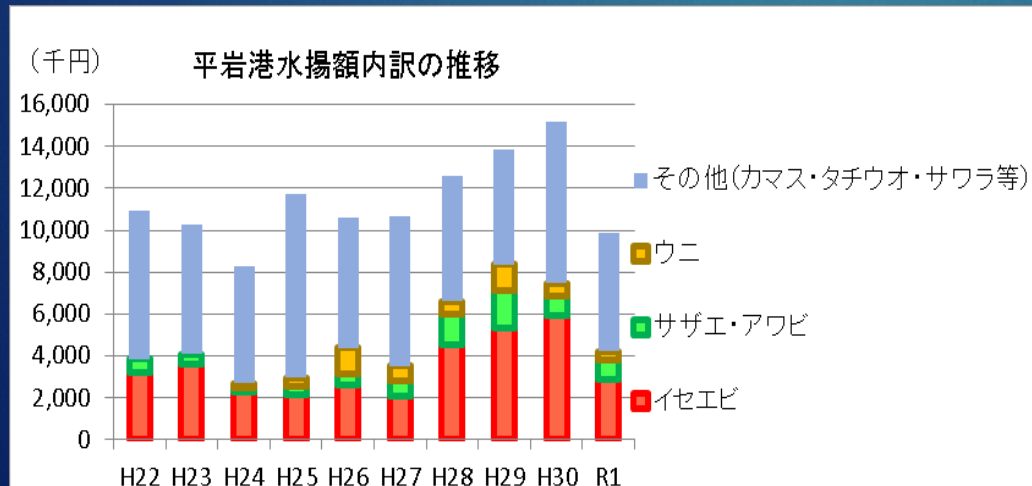
**約5倍の身入りの差を確認
飲食店でも提供できるようになる。**

(3) 漁場環境の変化していると思われるポイント

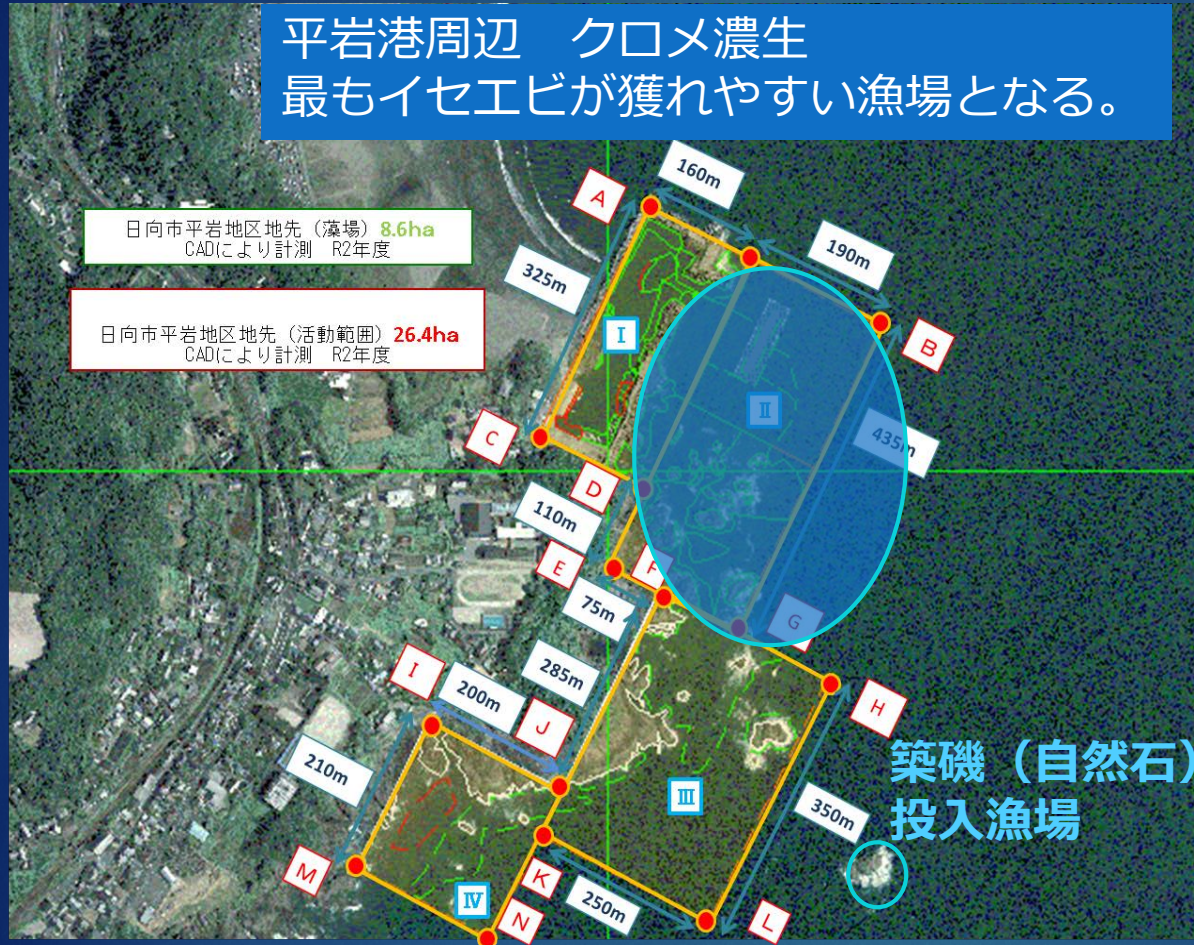
① 近年の水揚額と内訳の変化



※R1は、高潮や海の濁りが続き、特にイセエビ漁ピークの9～10月にほとんど操業できなかったため、水揚が減少



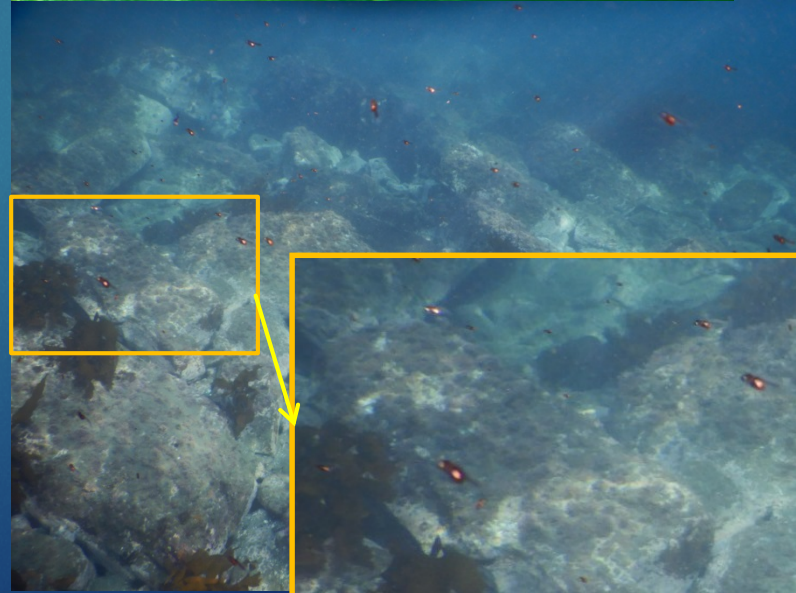
②イセエビの漁場の変化



- ▶ 周辺で生育の良いイセエビ・アワビが確認されるようになった

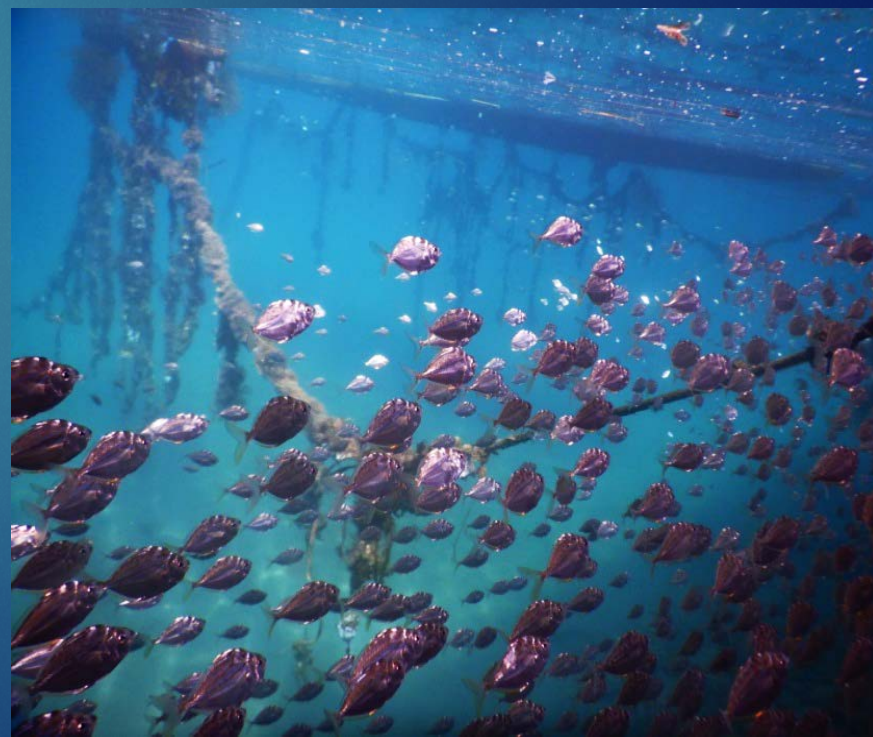


③平岩港周辺で度々小魚等の群れが目立つようになる。



船係留場で70m程度に及ぶ ヒイラギの大群を確認 (令和3年1月)

**漁獲対象となる大型の
魚類の資源増加を期待**



7. 発揮活動の実施状況及び成果 のまとめ

- ◎ 港外への藻場の拡大（面積は20倍以上に）
 - 適正密度に保たれたウニ類の身入り増
 - 小魚やイセエビ、アワビの生育が見られる
- 活動メンバーも藻場が以前の状態にかなり
近づいていると手応えを感じている。

8. 今後の課題・計画

(1) 今後の課題

- 保全活動の進捗、成果の発現とも極めて順調
- ただ・・・グループの高齢化は深刻
平均年齢約70歳(令和2年度現在)
- ★ 若手の参入者が望まれる

(2) 今後の計画と抱負

活動範囲拡大による藻場の維持・拡大
アワビ等稚貝放流等による資源回復の促進
磯根漁業の復興
できるだけ条件の良い環境を整える→後継者の参入